

日本の将来を支える人に

民間企業サントリーでの豊富な経験をもとに、雲雀丘学園中学校・高校（兵庫県宝塚市）で教育の陣頭指揮に立ってきた岡村美孝学園長（71）は、厳しい社会にはばたいていくとする子供たちに「強い心」「やさしい心」「正しい心」が必要だ、と説く。今春で学校を勇退する岡村さんだが、成長していく雲雀丘の生徒に向けて、家族を、社会を、さらには日本を支える人間になってほしいとエールを送る。

（聞き手 総合企画室 広瀬一雄）

向かい風に 翔べ！

①

《今年1月のブログ「学園長便り」で、箱根駅伝で優勝した青山学院大・原晋監督が、勝因として選手の「自律」をあげていたことを紹介した》
選手一人一人が自分の意思で練習し、反省し、そして次に向けて計画する。雲雀丘の生徒も、社会にでたら「自律」していかなければなりません。

雲雀丘学園中学・高校

岡村美孝学園長に聞く



3月竣工予定の新校舎「道しるべ」の前に立つ岡村美孝学園長。「将来の日本を支える人になってほしい」とエールを送る

（兵庫県宝塚市 柿平博文撮影）

学校は、新型コロナウイルスに対して感染対策に万全を期します。もし、いじめのような問題があれば、雲雀丘学園はその日のうちに会議を開いて、学校全体で問題を共有します。子供を全力で守ることは当然。一方で、生徒が自分でできることは自分で行うようにしないと。厳しい社会の中、強い力をもって自分で生き抜く力を持った子供を育てていきたい。

アメリカの作家レイモンド・チャンドラーは「タフでなければ生きていけない。やさしくなければ生きていく資格がない」との言葉を残しました。タフ、つまり強さとやさしさ。私はさらに、出身である滋賀県で商人の哲学として長く語り継がれる「三方よし」、「売り手よし、買い手よし、世間よし」の中にある「世間よし」、つまり社会もよくなるなければならないという意味を込めて「正しい心」を持ってほしいとも思っています。

雲雀丘の生徒は、建学の精神である「孝道」を身につけた、やさしい

おむら・よしたか 昭和48年サントリー入社。同社取締役、サントリーコーポレートビジネス社長を経て平成26年に雲雀丘学園常務理事に就任。翌27年から同学園中学・高校校長を兼務。29年に常務理事学園長に就任。サントリー社友。

岡村美孝さんの教育論②

- 子供の「強い心」「やさしい心」「正しい心」を育むことが必要
- 自分でできることは自分で行うことができる、「自律」した子供を育てたい
- 最新のニュースに触れて自分の意見をしっかりと持ち、発表できる積極性を

子供たちです。他校から来られた教師もみな「やさしい」と言ってくれます。しかしそれだけでいいのか、とも思っていました。

積極的に意見を発信 出前授業通じて育む

数年前、ドイツから、高校生が授業を受けに来たことがありました。「質問はありますか」と聞いた途端、全員が一斉に手を挙げて質問する。日本の移民政策に対しても、堂々と発言をしてくれました。一方で雲雀丘の生徒はなかなか発言できないのですが、もっともっと積極性を身につけてほしい。そのときにも、具体的な対応策を話し合いました。そんな中で、産経新聞の出前授業に出会ったのです。

《中学3年生には、昨年度から産経新聞総合企画室が月1回ペースで出前授業を行っている。毎回、最新ニュースについて岡村学園長と産経新聞総合企画室の田井東一宏部長が議論するところから授業が始まる》
授業当日の朝、その日の産経新聞



新聞の話題について議論する岡村美孝学園長（左奥）と産経新聞総合企画室の田井東一宏部長

るようになってほしい。これからの日本は、外国と立ち向かう積極性が求められます。
子供たちが社会人となって戦う場は、日本だけではありません。世界経済の成長を担う東南アジアもありません。堂々と自分の意見を主張でき、その場その場で臨機応変に物事に対応することが求められる。今、行っている出前授業は、そういう子供たちを育てるための、まさに進行形の授業なのです。

学校は「道しるべ」 自分の母校に誇りを

もう一つ、忘れてはならない大切なことがあります。出前授業を通じて、文章の書き方を教えていただいていることです。入試でも記述式の問題が重視されてきています。大学入学後も思考力、論理力を生かし、どう表現していくかが大切。授業を受けて、生徒の文章力は格段によくなったと思います。

《学校に入って中学・高校の校舎に向かうと、建設が急ピッチで進む校舎に目を奪われる。3月竣工予定の新校舎「道しるべ」だ。校舎の壁には、3羽のヒバリが力強く飛ぶグラフィックが取り付けられている。一方、岡村さんは3月いっぱいまで勇退し、学校を去る》

「道しるべ」は、学園の初代理事長であり、サントリー創業者である鳥井信治郎が、自身の随筆集につけた題名です。その中で「どんな困難な道でも道しるべがあれば心丈夫に踏み越えて目的地に到着することができる」と語っています。子供たちが自分の母校に誇りを持てるよう、まさに学校は「道しるべ」とならない。

雲雀丘学園に学び育っていく子供たちが、将来の日本を支え、正しく堂々と生きていってほしい。これが、私の願いです。